

店長のおじい

概要説明 今日も仕事に忙殺される日々。仕事は片づけても片付けても片付かないし…

バイトは仕事をするどころか仕事を増やしてくれるし…俺の仕事は謝罪するのが仕事じゃないッ！

店長・とあるチェーン店の店長。人員不足に年中頭を抱えている

岸谷・正義感より好奇心の方が強いアルバイト。

岸谷「店長、あの謎な激安カップ麺もうすぐ賞味期限ですよ」

店長「ああ…廃棄にしないよう値引いてくれ」

岸谷「激安からさらに安くなつたら誰も買いませんよ」

店長「岸谷さんが買うでしょ」

岸谷「買いませんよ。幾らにするんです？」

店長「…30円引き位？」

岸谷「もう落ちてるお金で買えちゃうレベルじゃないですか」

店長「50円玉なんて最近早々落ちてないよ」

岸谷「そうですね。1円ならたまに落ちてるけど。」

店長「…品だしは終わった？」

岸谷「まだ納品きてませんよ」

店長「今日遅いな…」

岸谷「トラックの運ちゃんも命懸けで仕事してるんですから」

店長「ああうん…バイトの君が何を思って命懸けの話をしたのかよくわからないけど」

岸谷「いらつしやいませー」

店長「はい、いらつしやいませー」

岸谷「…で、何の話をしたんですって？」

店長「話じゃなくて仕事してくれる？」

岸谷「日々生きるのも我等人の子に課せられた仕事ではないでしょうか」

店長「うん。仕事しないなら辞めてもらおうよ？」

岸谷「出ました。君の代わりなんて幾らでもいるんだよ発言。売り手市場の上から発言…

でも本当に辞めたら困りますよね」

店長「困る。非常に困る」

岸谷「年中アルバイト募集してるのに学生どころか面接希望者すら来ない。」

店長「何なの。最近の子は働く気すらないの？」

岸谷「ブラックだ。この会社ブラックだってバレてるんですよ」

店長「…世の中ブラック会社がすべて消え去つたらこの国が終わるね。ブラック会社が

あるから競争が生まれ、それなりの価格で商品を買えているんだよ」

岸谷「店長、この会社がブラックって認めるんですか」

店長「どこも同じだつて言われたつて働いても店長はサビ残になること自体がドス黒い世の中です。そんなことより仕事してくれる?」

岸谷「店長」

店長「何」

岸谷「万引きです」(奥の客をじつと見つめ)

店長「ちよつとやめてよ」

岸谷「捕まえます?」

店長「現行犯じゃなきゃ私人逮捕できないのよ。勝手なことしないでよ」

岸谷「え、何黙つて商品盗られるのを指くわえて見てろと」

店長「最近冤罪多くて示談金とかぶんどられるんだからね…勘弁してよもう」

岸谷「捕まえるのが店長の仕事じゃないつて言うなら私が捕まえますよ」

店長「今の話聞いてた?余計なことしないでよ、岸谷さん…仕事増やさないで」

岸谷「私は行くッ正義の為に!」(レジから飛び出す)

店長「ちよ、岸谷さんほんとに行つたの?…ねえ、やめてよ?」

ええ…あ、いらつしゃいませー」(客が来たので接客)

【客激怒】(冤罪でひたすら謝罪する店長)

店長「…誠に申し訳ございませんでした。アルバイトが勘違いをしまして…」

岸谷「すみませんでした」

店長「いや、もうここは穩便に…はい。はい。…こちらお詫びの品なんですが…はあ。

いえ、お客様を犯罪者だなんてそんな…」

岸谷「…手の動きがね…。こうつ、こうつ…何か右手は添えるだけのな…」

店長「本当に申し訳ございませんでしたー…。で、岸谷さんは何で仕事増やしたの」

岸谷「正義感に燃えたというか。犯罪NO!万引きダメーみたいな。…まあそれに謝るのが

店長の仕事かなつて」

店長「謝罪前提かい」

岸谷「店長つて大変ですね」

店長「使えないバイトが来て仕事を増やされるとなッ」

岸谷「あ、時間なんで帰りますね。サビ残ガンバです」

店長「今の報告書も本社に送らないといけなくなつたじゃないか…今日日付変わる前に帰れるかな…」

岸谷「お疲れ様でしたー!」

店長「……」